

No.3010

オーストラリアにおける技術移民の支援策と差別化策

: 457 カテゴリビザの運用とロイヒル鉱山開発事業にみる

日本社会への応用可能性の検討

神田外国大学 外国語学部

英米語学科・専任講師

小野塚 和人

1. 現地調査の実施状況と概要

第1回調査を2019年9月1日から7日にかけて西オーストラリア州(WA州)パース市内にて実施。主な内容は、聞き取り調査と資料収集である。資料収集調査はWA州立図書館、WA州立公文書館等で実施した。

第2回調査は2020年3月10日から21日までを予定していたが、新型コロナウイルスの流行に伴い、中止せざるを得なかった。代替策として、渡航前に聞き取りの承諾を得ていた方々へ、国際電話やスカイプを用いて聞き取り調査に応じていただいた。

2. 現在の成果発表と研究の進捗に関する状況

2-1. 研究成果①：鉱山開発分野における外国人労働者の登用に関する研究

2018年度から2019年度4～8月期にかけて行った研究成果は、「オーストラリアの超長距離通勤論争において解明の必要な課題はなにか：テキストマイニング手法による新聞記事表象の定量的・定性的分析」と題した論文を2019年8月末に『オーストラリア研究』(オーストラリア学会誌)に投稿し、審査の結果、2020年3月に刊行された。この論文では、WA州ピルバラの鉱山開発をめぐる現地新聞での報道内容を分析した。オーストラリアの全国紙(The Australian, Sydney Morning Herald, The Age)とWA州の主要地方紙であるThe West Australianを対象として、テキストマイニングの手法を用いた計量テキスト分析と全文記事読解による定性的分析を実施した。

2-2. 研究成果②：外国人労働者に対する住宅支援の考察

2019年度に実施した研究成果の一部は、『都市住宅学』(都市住宅学会誌)において、「外国人労働者としての難民認定者に対する住宅支援：西オーストラリア州の主要都市部における定住支援策と住宅事情を中心に」を提出し、2020年8月に論文が公刊される予定である(採録決定済)。この論文では、オーストラリアの難民認定者の受け入れと外国人労働力としての登用に関する状況、さらに、難民認定者への支援方策と住宅確保に至る過程を中心に考察した。